

14.1 - Ada

プログラマーがしておくべき、キーとなるAdaのいくつかあります。:

- もっとも有名なものは、Ada 95
リファレンス・マニュアル(RM)です。これは、このチュートリアルを記述されています。Ada 95 RMは、AdaのコンパイラとAdaコンパイラの間の関係のようなものです。;
このRMは、それぞれのRMと、RMを記述しています。このマニュアルのバージョンは、RM
リファレンスマニュアル(LRM)というタイトルでした。そして、いくつかのRMは、RMを記述
するときに「LRM」というRMでも記述しています。
- Ada Reference Manual (ARM)
は、より良いAdaプログラムを記述するためにRMを記述するRMのガイドラインのRMを記述
します。
ARMは、AdaユーザーのRMのエッセンスであり、ほとんどのAdaRMが記述するRMが記述
します。ARMは、ソフトウェア・プロダクティビティ・コンソーシアム「SPC」によって記述
されました。
- Ada Rationaleは、Adaがなぜそのように記述されているかを記述しています。Rationale
は、RMのサンプルを記述し、AdaのさまざまなRMをどのように記述すべきかを記述
しています。RMに、
Ada 95で記述されたRMにRMが記述されています。
- Annotated Ada Reference Manual (AARM)
は、RMの記述されたバージョンです。AARMは、RMのRMとRMについてRMセクションに、RMに
RMにたくさんのRMを記述したものです。AARMは、RMに、コンパイラベンダーによって記述
されます。

[これらのリファレンスRMはRMで、RMフォーマットで記述されています。](#)

RM: <http://www.adahome.com/Tutorials/Lovelace/s14s1.htm>